

年中行事

会津にはたくさんの年中行事がありますが、その中で主なものをあげてみます。

1. 正月の行事

元日参り 一般には、近くの神社を参拝します。町には、諏方・お八角・蚕養・東山のお羽黒などたくさんの神社があります。

初音 元日の朝早く、竹で作った初音といううぐいすの音色をだす鳥笛を吹き、売りにきます。うぐいすは、春を告げる鳥なので、初詣の人が買い求め、吹きながら帰ると、いかにも新年を感じさせます。

七草（7日） この朝、七草粥を食べます。「七草たたきなにしたたく、唐土の鳥が日本の土地に渡らぬうちに、すとんとん」と歌を歌いながら七草を細かくたたきます。それをお粥に入れ、さらに切ったもちを入れて食べる家もあります。



十日市の露店

十日市（10日） 市の中心、大町通りと神明通りを中心しんめいに開かれます。300年以上の伝統があり、約500店もの露店ろてんが立ち並び、近くの農村から買物に来た人でにぎわいます。この日売られる縁起物の起き上がり小法師を家族の人数より1個多く買い求め、神棚にまつり、1年間の家内安全を祈ります。風車とともに忘れてはならないこの日の買い物となっています。

団子さし（14日） ミズキの若木にそば・粟・米の粉で作った団子（金小判、きね、馬などをかたどったもの）をさして、神棚にそなえ、豊作を祈ります。

さいの神（15日） 神棚の注連しめや、松飾まつかざりなどを集めて焼き、この火で焼いたもちや団子を食べると、また、この火

でたばこをつけると、腹痛、歯痛などをしないといわれています。

2. 春の行事

節分（2月3日） 田作（魚）の頭を豆柄まめがらにさして、それを戸口にさします。夕方に「福は内、鬼は外」の声に近所どうしが競って鬼を追い出そうとし、福を招きます。豆占まめうらなといって、向こう12カ月に見立てた豆を焼き、その焼きかげんで1年の天候を予測します。

桃の節句（3月3日） 女兒の生まれた家では、ひな人形を飾り、草もちを供え、甘酒を飲んで祝います。

春彼岸（3月18日～24日） 各家では、彼岸花（造花）を仏壇ぶつだんに供え、先祖の霊を祭り、墓参りをします。中日には、おはぎをつくって供え、また彼岸中、彼岸獅子ひかんじしが各戸を回ります。秋には秋の彼岸も行います。